

略 島がはら傳の浦をしなべて、田子の浦と總名に云なり、清見與津などそのうちの小名也、○歌

足高山 富士より東にあり、此山は唐土の山となり、富士に岳々らべせんとて日本え來るを、足柄の明神けくづさせ給ひて、富士よりひきしと云へり、駿河の沖に浪のごとくにて有りけるを、神力を以今うき島が原と成し、と云々、子細ありてこと、のよし、むかし鎌倉へ下るには、ふじと足高山との間を、足柄ごえとてくだりしとなり、  
浮島が原 東西三十里也、但し六町を一里とすと云へり、富士より南也、富士と此原との間は水海也、京より南は大海也、ふじ川より東に見付といふ所あり、爰より次を浮島が原といふとなり、○歌

〔延喜式〕兵部二十八諸國健兒略○中 駿河國五十人略○中

諸國器仗略○中 駿河國甲三領、横刀七口、弓册、張征箭册具、胡籙册具、

〔吾妻鏡〕六文治二年三月十三日辛卯、關東御分國々乃貢、日者依朝敵征伐事、頗懈緩、然者被免、以前分、自今年可合期沙汰之由、所被申、京都也、

諸國濟物事、治承四年亂以後、至于文治元年、世間不落居略○中 賴朝知行國々、相模、武藏、伊豆、駿河、

上總、下總、信濃、越後、豐後等也、○中

三月十三日

賴朝

進上帥中納言殿

〔萬葉集〕十四相聞

安麻乃波良不自能之婆夜麻己能久禮能等伎由都利奈波阿波受可母安良牟、  
不盡能禰乃伊夜等保奈我伎夜麻治乎毛伊母我理登倍婆氣爾餘婆受吉奴、